

令和七年度入学式 学長告辞



山 黒 良 寛
学 長

例年になく雪深い年であった
ここ深川の地に、ようやく雪解
けが進みやわらかな日差しが届
くようになりました。まさに、
待ち望んだ春の到来を感じるこ
の良き日に、拓殖大学北海道短
期大学に入学された新入生の皆
さん、ご入学おめでとうござい
ます。私たち教職員一同、皆さ
んのご入学を心から歓迎し、お
祝い申し上げます。また、この
日まで新入生を慈しみ深く育て
てくれました保護者の皆さまに
心から敬意を表するとともに、
入学の喜びを分かち合いたいと
思います。そして、拓殖大学国
際学部農業総合コース3年生の
皆さん、八王子キャンパスを離
れこの深川の地で農業を共に学
ぶ学生として心から歓迎いたし
ます。

新入生の皆さんが入学した本
学は、今から59年前の1966
年に開学しました。その後、当
初の納内キャンパスからこのメ
ムの地に移転して34年目となり
ます。本学の建学の精神は、「拓
殖大学の伝統である開拓者精神
を継承し、実践的な知識や技術
と豊かな人間性を兼ね備えた、
広く社会の発展に貢献できる有
為な人材を育成すること」を目的
とする」と謳っています。皆さん
は、この2年間で自分が将来、
思い描く分野での活躍を目指し

その道に進むべき基礎力と実践
力を身に付けて下さい。そして、
皆さんが社会で活躍できるように、
本学の学びの原点である「感動
と成長」を十分に享受しながら、
自ら体験し、課題を見つけ、そ
れを解決する力を養っていただ
きたいと思っています。そのため
は、考える力が必要です。大学
は皆さんに答えを教える機関で
はありません。答えのないところ
から、皆さん自身で答えを導
き出すことこそが次代を読み取
るの能力となり、その根幹を支
えるのは考え続ける力なのです。
どうか、この地において地域を
担う人材として大きく成長して
いただきたいと思います。

本学は、春は新緑香る木々に
囲まれ、夏は青き空に映える校
舎を眺め、秋には実り豊かな大
地の恩恵を受けながら、この美
しい北海道深川市に居を定め地
域から愛される大学、地域の発
展を担う人材教育機関として、
皆様の負担に応えようとする努
めてまいりました。さらに、昨
年度の41回目ミュージカルは
最終となりましたが「感動こそ
が教育の原点」として、学内に
とどまらず学外におきましても
皆様のともに歩んでまいりまし
た。その間、1万3千人を超え
る卒業生を世に送り出し、卒業
生の多くが地域のリーダーとし
て活躍し、特に農業界では重責
を担う人材として活躍をしてお
ります。また、保育所の設置拡
大に伴う保育者の輩出しは農村生
活の改善に大きく寄与し、現在
は家族のあり方が変化するに伴
い高まる幼児教育の需要を担っ
てきました。先輩の方々とは、そ
れぞれの分野で地域を支える
リーダーとして立派に活躍をし
ておられます。どうか、新入生

の皆さんも、本学の建学の精神
は引き継ぎながらも、新たな時
代にむけた伝統と価値の創出に
むけて、柔軟な思考とさまざまな
視点で物事を捉まえ、発想を
広げていただきたいと思います。
結果、そのことが本学の伝統を
守り続けることになっていくの
です。

本学は開学以来、農業、経
済、幼児教育の3本の柱で、教
育・研究活動を推進してきました。
しかし、農業の担い手不足、
地方都市における人口減少と少
子化の影響により、ここ数年は
非常に厳しい道のりを歩んでい
る状況と言えます。誠に残念で
はありますが、昨年度の保育学
科に続き、農学ビジネス学科に
おきまして令和8年度の学生
募集停止という苦渋の判断を
いたしました。新入生の皆さん
が、農学ビジネス学科最後の新
入生であり卒業生となるわけ
ですが、本学が担う地域振興に貢
献できる人材育成という使命に
何ら変わりはありません。在籍
する両学科の学生全員が、夢を
実現できる必要な単位と資格を
取得し希望の進路に進めるよう、
教育の質を下げることなく責任
を持って取り組んでいきます。
どうか安心して下さい。また
保護者の皆様には、本学を進学
先として選んでいただきながら
大変なご心配とご苦労をおかけ
しました。改めて心からお
詫言ひ申し上げます。入学され
た皆さん個々人が、2年間の学生
生活を終え多くの思い出ととも
にここを卒業し、拓殖大学北海
道短期大学に入学した誇りと愛
情を持ち続けていただけるよう、
教職員一同努めて参りますので、
引き続きご理解とご支援を賜り
ますようお願い申し上げます。
本学には、石狩川が運んだ栄
養分に富んだ実験・実習農場が
あります。全道を代表する水稲
産地である深川市の中でも一等
地といえる素晴らしい土壌です。

また、本学はサツマイモやラッ
カセイなど、北海道では栽培が
難しいといわれた作物にいち早
く着目し、その研究成果をとお
し北海道の新顔作物として認知
された作付面積の拡大に貢献し
てきました。どうか、日々変わり
ゆく季節の中で、豊かな土壌の
ゆくと作物の成長に感動し、仲
間と収穫の喜びを味わい、この
恵まれた学び舎で学生生活を有
意義なものにしていただきたい
と思います。

本学は、地域社会とともに発
展する短大として、「農業セミ
ナー」「保育セミナー」「新規
就農者冬期講座」などを開催し
てきました。さらに、深川市の
行事や地域を元気にする食プロ
ジェクトなどをおし地域の方
々と交流を深めてまいりまし
た。本学は地元深川市から多大
なるご支援をいただいております
が、深川市をはじめ近隣の自治
体や皆様が生徒に寄せてくださ
る温かい眼差しに優しさは私
自身もこの深川市に住んで強く
感じています。どうか新入生の
皆さんも地域から愛される拓大
生となってください。
最後にお願ひです。大学生生活
は、楽しいことばかりではなく
時に苦しみ悩むことがあるで
しょう。ただし、悩みは誰しも
持っているものです。一人で悩
みを抱えることなく、勇気をだ
して友人や先輩に話を聞いても
らったり、私たち教職員にも遠
慮なく相談してください。私た
ち教職員は、何時でも学生の側
（そば）に立ち続けます。オー
プンキャンパスなどで皆さんが感
じた、学生と教職員との距離が
近いことこそが本学最大の強み
の一つなのです。
今日からいよいよ大学生です。
健康に十分留意し、思い出多い
学生生活を送られますことを切
に願ひ、新入生への歓迎の辞と
します。